

中学校 第3学年 外国語科 学習指導案

北海道初山別村立初山別中学校
教諭 佐藤 孝司

単元名 Lesson 4 People Who Support Success（7時間）

単元の目標（Goal） 【内容理解】 紹介されている人物がそれぞれどんな人かを理解する。
【活動】 「自分がどんな人物になりたいか」を表現することができる。

本時（第1時）のめあて 【内容理解】 本文の要点を掴み、Checkの問いに答えよう。
【活動】 「～する（人）」と前の名詞を説明する表現の形・意味を理解しよう。

指導時期 9月上旬～9月中旬

指導者用デジタル教科書（教材）活用の意図・目的

「指導者用デジタル教科書（教材）」には、音声や映像、場面イラストなどの多様な資料が含まれており、生徒が内容を推測しながら主体的に学習を進めることを支援する。本時では、関係代名詞 who を初めて学習する導入段階として、文法事項を先に説明するのではなく、本文の内容理解を通して表現の働きに気づかせることを重視した。

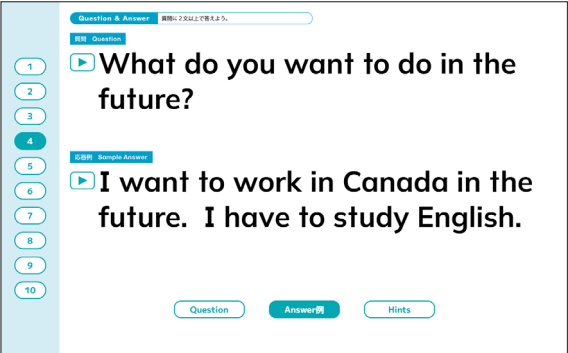
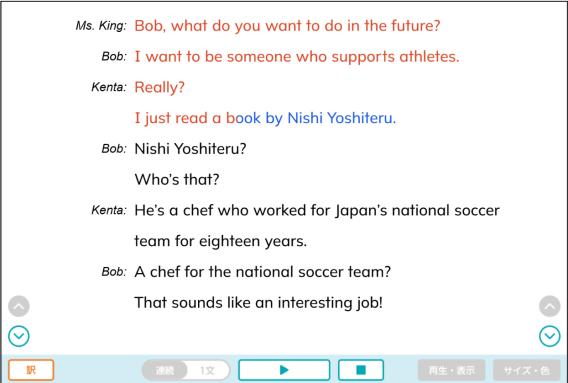
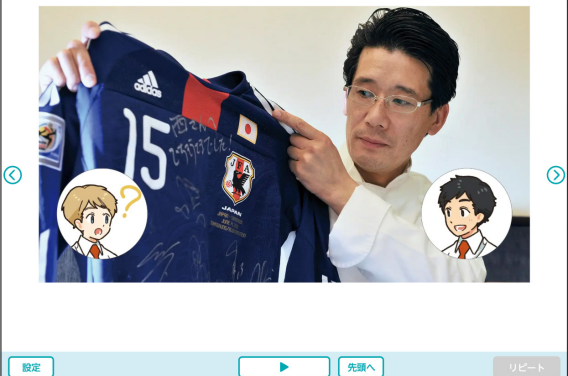
単元冒頭では、本文中に登場する西芳照さんの写真や場面イラストを提示し、「どのような仕事をしている人物なのか」「なぜサッカー選手を支える仕事に興味をもったのか」などを考えさせる。視覚情報と音声を活用することで、生徒は本文の内容を予想しながら読み進めることができる。

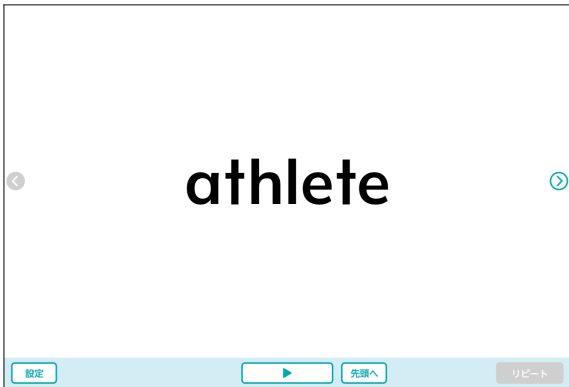
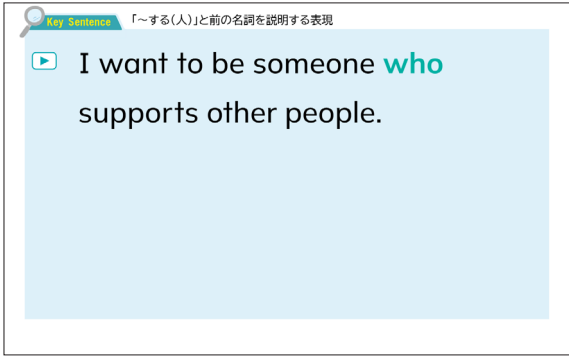
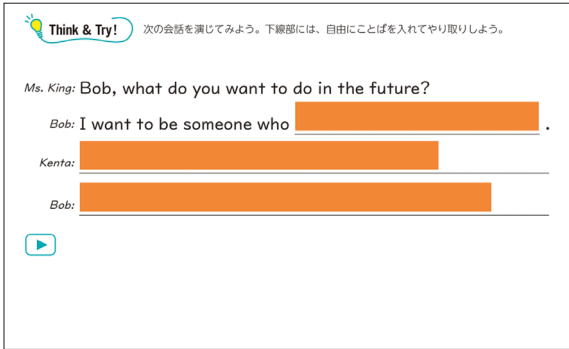
また、「リーディングコンテンツ」を活用することで、音声と文字を関連づけながら内容理解を深めることができる。本文中の“someone who supports athletes”や“a chef who worked for Japan’s national soccer team”といった表現に着目させることで、生徒は人物を詳しく説明するために who が用いられていることに自然に気づくことができる。

さらに、「Key Sentence コンテンツ」や「Key Sentence 定着コンテンツ」を活用することで、関係代名詞 who の意味や働きを視覚的に整理しながら反復練習を行うことができる。

本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 (12分)	「指導者用デジタル教科書（教材）」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	デジタル教科書を開く。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	1 授業の導入（5分） (1) あいさつ (2) 帯活動 ●過去に学んだ「Activities Plus」を活用し、将来就きたい仕事についてペアで交流する。 (例) S₁: What do you want to do in the future? S₂: I want to be a teacher. I want to make students happy. (『ONE WORLD English Course 1』Activities Plus 3 Q4より) 2 単元の題材の導入（7分） (1) 「単元導入動画」や本文中の写真、場面イラストを提示する。 (2) 「誰だと思うか」「どのような仕事をしているか」を予想する。 (3) 単元の Goalを確認する。	●「Activities Plus コンテンツ」で帯活動を行う。  ●「単元導入動画」で単元の概要を共有する。 
展開 (35分)	3 本文の発音練習（10分） (1) コーラル・リーディング ●「リーディングコンテンツ」で一斉に音読の練習をする。 (2) 個別音読 ●「学習者用デジタル教科書」の「リーディングコンテンツ」で、個々による音読の練習をすることもできる。 ●文章をアレンジして音読する。 (例) なりきりアレンジ（ロールプレイング） 生徒が登場人物になりきり、主語や目的語を変化させながら音読することをねらいとする。 4 本文の確認（15分） (1) 「Scene」と「Check」でシチュエーションを共有する。 (2) 「本文 Picture Story-Show」を使い、音声とピクチャーイラストのみ（字幕表示なし）で本文の内容を予想する。	●「リーディングコンテンツ」で音読練習を行う。  ●「本文 Picture Story-Show」で内容を予想する。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	(3) 「フラッシュカード」を表示し、新出語句を確認する。 (4) 西芳照さんについてわかったことを整理する。 (5) 本文内容を確認する。 5 文法の確認 (10分) (1) Key Sentenceの確認 「Key Sentenceコンテンツ」を表示し、意味や文の形の確認をする。 (2) 口頭練習 「学習者用デジタル教科書」で各自「Key Sentence 定着コンテンツ」を表示し、反復練習をすることも可能である。	●「フラッシュカード」で新出語句を確認する。  ●「Key Sentence コンテンツ」を表示する。適宜メモを書き込む。 
	6 まとめ・ふり返し (3分) (1) 「本時のめあて」のふり返しを実施する。 (2) Think & Try!を利用し、人物紹介の文を考える。 (例) He is a chef who supports athletes. (3) あいさつ	●「Think & Try!コンテンツ」で内容をふり返る。 
まとめ (3分)		

指導者用デジタル教科書 (教材) を活用したことで得られる効果

「指導者用デジタル教科書 (教材)」を活用することで、生徒は視覚情報と音声を手がかりに内容を理解しながら学習を進めることができる。特に関係代名詞 who のような新しい文法事項についても、文法説明から入るのではなく、本文中で実際に使われている場面に触れながら意味や働きを捉えることが可能となる。

また、「Key Sentence コンテンツ」や「Key Sentence 定着コンテンツ」を活用することで、関係代名詞の働きを視覚的に整理しながら反復練習を行うことができる。こうした活動を通して、生徒は人物を詳しく説明する表現について実感を伴って理解し、自らの表現活動へ活用していくことが期待できる。

今後もデジタル教科書の特長を生かしながら、生徒が主体的に学び、英語を用いて考えや思いを伝える授業づくりを進めていきたい。